

博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25年度		
申請大学名	九州大学	申請大学長名	有川 節夫
申請類型	オールラウンド型	プログラム責任者名	安浦 寛人
整理番号	P02	プログラムコーディネーター名	矢原 徹一
プログラム名	持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本事業の目的は、専門分野での世界でトップレベルの業績、持続可能性に関する広範な知識に加え、専門・学際科学の成果を統合し、課題解決への決断を下すための新たな学識を持ち、国際社会においてプロジェクトを提案し、明確なプレゼンテーションによって人々を説得し、さらに課題解決に向けての協働作業を組織・推進する指導力を備える人材を育成することである。

これからの時代を牽引するグローバルリーダーには、専門分野における世界でトップレベルの業績（専門性）、持続可能性に関する広範な知識（学際性）に加え、専門・学際科学の成果を統合し課題解決への決断を下すための新たな学識（統域性）を持つことが求められており、また、グローバルリーダーには、国際社会においてプロジェクトを提案し、明確なプレゼンテーションによって人々を説得し、さらに課題解決に向けての協働作業を組織・推進する指導力が必要とされている。

これら社会からの要請に応えるために、3つの学識（専門性・学際性・統域性）と4つの実践的能力（国際力・研究提案力・プレゼンテーション力・指導力）を修得できる5年一貫のカリキュラムを提供するとともに、オールラウンド型科学として「決断科学」を開拓し、この科学を軸としてオールラウンド型リーダーを養成する。

本学は、平成7年に「九州大学の改革の大綱案」を決定し、この方針に則り、平成12年にわが国で初めて「学府・研究院制度」を導入した。この制度は、大学院の教育研究組織である「研究科」を教育組織としての「学府」と教員の所属する研究組織である「研究院」とに分離し、従来の学問分野を大きく超えて次代の先端的・学際的教育研究組織の柔軟な構築を可能とするものである。本制度導入後、新たな学府としてシステム生命科学府（平成15年）、統合新領域学府（平成21年）等を新設し、さらに、多くの学府において改組等を行った。また創立百周年にあたり、平成23年に策定したこれからの百年を見据えた「百年メッセージ」において「骨太のリーダー養成」を標榜しており、人材育成の理念として、先見性と俯瞰力の獲得、挑戦する姿勢、創造的な連携の重視、しなやかな行動力を謳っている。

本プログラムは、これまでの九州大学の改革をさらに進め、既存の学府に共通する新たな教育プログラムであり、将来的な「決断科学専攻」の設置を視野に入れた改革構想である。

2. プログラムの進捗状況

- (1) 初年度には特例として年度途中からの採用を行うという申請書の方針に基づき、平成25年11月に学生の募集を行い、12月から32名の学生（1年次21名・2年次9名・3年次2名）を受け入れた。12月から毎週火曜日にプレゼンテーションセミナーを開講し、科学的な問い方、人類の歴史と未来、人間の認知バイアスなどのテーマについて、プレゼンテーション・討論・レポート提出を軸とする教育を実施した。平成26年1月11-13日には、屋久島において1年次学生の合宿（組織研修セミナーI）を開催し、屋久島の現場を通じて環境・災害・健康・統治の課題について総合的に学ぶと同時に、チーム運営の経験を積んだ。
- (2) 平成25年12月1日に「九州大学持続可能な社会のための決断科学センター」を設立し、同センター運営委員会の下で、特定プロジェクト教員を11月に公募し、12月から3月にかけて30名（総括チーム9名・環境モジュール5名・災害モジュール5名・健康モジュール4名・統治モジュール3名・人間モジュール4名）の採用候補者を選考した。このうち12名が平成26年2月1日に、3名が3月1日に着任し、プログラム学生に対する教育を開始した（残る15名は4月1日着任）。また、国際共同研究実習等を支援する学術研究員1名とテクニカルスタッフ3名を選考した（テクニカルスタッフ1名は12月1日着任、残る3名は4月1日着任）。
- (3) 平成26年1月1日に「決断科学大学院プログラム支援室」を設置し、財務、教務、国際渉外を含む総務を担当する特定有期プロジェクト支援職員を計7名選考し6名を雇用した（残る1名は4月1日着任）。
- (4) 平成26年1月31日に、「九州大学持続可能な社会のための決断科学センター」開設記念シンポジウムを開催した。プログラム学生22名、平成26年度受講希望学生15名、国内外部評価委員7名を含む計229名が参加し、海外プログラム担当者による記念講演、決断科学プログラムの教育の理念・計画・実施状況についての教員・学生からの報告、協力企業関係者からのコメントなどに基づいて、今後の計画と課題について討論を行った。
- (5) 平成26年1月31日に国内外部評価委員会を開催し、決断科学プログラムの教育の理念・計画・実施状況について7名の評価委員による評価を受けた。
- (6) 平成26年3月6-7日に、第一回国際シンポジウムを開催した。海外プログラム担当者1名、国際アドバイザー委員2名を含む、延べ95名が参加し、決断科学プログラムのコンセプトペーパー（英文）草案に基づいて、2日間にわたって英語による討論を行った。また、国際アドバイザー委員から、決断科学プログラムの教育の理念・計画・実施状況についての評価を受けた。
- (7) 平成26年2月25日～3月5日に健康モジュールによるバングラデシュ実習（学生6名参加）、3月7日～13日に環境モジュールによるカンボジア実習（学生7名参加）、3月10日～16日に災害モジュールによるケニア実習（学生15名参加）を実施した。バングラデシュ実習に参加した学生は、上記国際シンポジウムにおいて英語による成果発表を行ない、レポートを作成した。カンボジア実習・ケニア実習に参加した学生は、実習の成果を報告書にまとめた。